

# 聖橋プラムカフェ ニュースレター 創刊号 (2017.6.2) 東京医科歯科大学大学院

がんエンドオブライフケア  
看護学 福島綾華

樋野先生の「がん哲学外来」の講義に感銘を受けて、今回「聖橋プラムカフェ」を開設する運びとなりました。二人に一人ががんに罹患する時代であり、外来治療が発達し入院までしなくても治療を受けながら社会生活を営まれている方々やその方を支えるご家族やご友人の方々、またがんで大切な人を亡くし時が経ってもつらいままの方々は多くいらっしゃいます。「聖橋プラムカフェ」は、そのように毎日をさげなく頑張っている方たちにとって、和やかにお茶を飲み、他愛ないおしゃべりができる癒しの空間を目指します。先生から「偉大なるお節介症候群」の認定をいただき、私たち院生4人が始めるこのカフェはまだ頼りない湧き水のようなものですが、いつか流れのある川につながるように大切に育てていきたいと思っております。

がんエンドオブライフケア  
看護学 西塚祐樹

看護師の私は、ベットサイドに置かれた樋野先生の本「いい覚悟で生きる」を患者さんと目しながら、お話を伺ったことがあります。ご自身のことをあまりお話しされるような方ではありませんでしたが、それからは訪室するつど、笑顔でお話しされるようになっていったことが印象に残っています。「馬の上から花を見るvs馬から降りて花を見る」と先生は講義の中でおっしゃいました。私は、患者さんの前で「がん」という言葉を口にすることはありませんでした。しかし、その患者さんの前で初めて使ったことを記憶しています。一冊の本を通して、私自身ありのままであることができた時だったと思います。いつか「聖橋プラムカフェ」で、お茶を飲みながら、心の対話ができることを楽しみにしています。

先端侵襲緩和ケア看護学  
井上徹治

私は4年間、大学病院の急性期病棟で勤務していました。主に術後の患者さんと接することが多く、消化器・呼吸器・泌尿器・婦人科・歯科口腔など様々な領域のがんを患い、手術療法を施行したあとの方と接しました。手術の前に化学療法などを耐え抜いてきた方が手術をし、術後落ち着くと再び化学療法を行うという方が多かった印象があります。手術をしても転移の可能性などが頭をよぎり、これからの治療を考え悩む方もたくさんいらっしゃいました。今回、「聖橋プラムカフェ」での集いを開催するにあたり、がんと向き合う中で苦悩や葛藤を心地よい雰囲気の中で楽にして語り合える場所となり、みなさんにとって貴重な機会となっていくことが望みです。

地域健康増進看護学  
庄司花円

樋野先生の講義を通して『がん哲学』の考え方に感銘を受け、さらに先生が行っている様々な活動にとっても興味をそそられました。私の両祖父と父はがんにより亡くなりました。父ががんと診断されてから亡くなるまでの間、自分が何もできないことに絶望し、「もっと早く気づいていれば…」と考えを巡らす日々を過ごしていた時期もありました。

今回、「聖橋プラムカフェ」を通して、がんに向き合い改めて医療者として自分に何ができるのか考えていきたいです。またカフェを訪れてくださった方達の心を癒すことができる空間を仲間とともに作り上げていけるよう、がんばっていききたいと思っております。

『がん哲学外来 聖橋プラムカフェ』ニュースレター創刊号祝辞  
順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授 樋野興夫

2017年5月25日 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 がんエンドオブライフケア看護学で、『「がんの病理」と「がん哲学外来」～医療者の2つの使命～』で、講義の機会が与えられた。聴講した大学院生には、『偉大なるお節介症候群』認定証を授与した。この度、『純度の高い専門性と社会的包容力』&『速効性と英断』で、『がん哲学外来 聖橋プラムカフェ』が発足された。

新渡戸稲造は、第一高等学校の校長の時、「学生は、校長室は敷居が高いので、相談に来づらい」と、学校の近隣に、木曜日の午後、場所を設定した。「教育とは『空っぽの器の場の設定』」でもあろう。「人生とは『器に水が入っても穴が開かないよう頑丈』にしていく訓練」であり、「良い出会いとは、『空っぽの器に水を入れてもらう』こと」であろう。しかし、現代、自分で水を入れている人が多いのではなかろうか？ それでは、もったいない。器が空っぽなら、誰かが水を入れて呉れ、心が満たされることであろう。『がん哲学外来 聖橋プラムカフェ』は、「無邪気に喜んで、底が抜けない空っぽの器の提示」である。

癌研時代の恩師：菅野晴夫先生から『広々とした病理学＝「病理学」には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する』を学んだ。菅野晴夫先生は、

- 1) 30代は、人に言われたことを、がむしゃらにやれ！
- 2) 40代は、自分の好きなことに、専念せよ！
- 3) 50代になったら、人の面倒を見よ！
- 4) 60代になっても、自分のことしか考えていなかったら、恥と思え！

「吉田富三先生が、自分に、話された言葉であるので、お前にも伝える」と、語られた。「自分が一番大切と思ったことを、次の世代に伝える」教育である。

- 1) 先に生まれたものは、後に生まれたものを、導く
- 2) 後に生まれたものは、先に生まれたものを、訪う

「がん哲学外来 聖橋プラムカフェ」の開設にあたって  
東京医科歯科大学大学院 がんエンドオブライフケア看護学 山崎智子

この度、お茶の水メディカルカフェ5周年の記念すべき5月に、また大学院で樋野先生に「がんの病理学・がん哲学」の講義をお願いしてから10年目という節目に、カフェを開設することになったことを嬉しく思っております。樋野先生の講義を受講した大学院生を代表として、この10年で受講した学生、修了生もたくさんおり、皆で盛り立てていきたいと思っております。「馬から下りて花を見る」に共感した学生は、すでに第一歩を踏み出しています。この活動がそれぞれの場所へ旅立った時に、多くの種をまくことにつながると期待しています。

